

平成28年度
自己評価報告書

岡山自動車大学校

1 学校の教育理念、校訓

自律創生・信念貫徹・共存共栄

2 具体的な教育目標、スローガン、育成人材像

①具体的な教育目標・方針

- ・自動車整備士登録試験一級小型、二級ガソリン・ジーゼル三種目の100%合格
- ・関連業界への100%就職
- ・時代・企業ニーズへの対応
- ・各種関連資格取得
- ・基礎学力の修得・補填
- ・基礎的な生活習慣・社会常識・マナー・規範教育の徹底
- ・国際感覚の涵養
- ・学生一人一人の個性・能力に適合したきめ細やかな指導

②具体的なスローガン

- ・学生満足度の向上・保護者信頼度の向上

③具体的な育成人材像

- ・セールスも出来るコミュニケーション能力・人間性を備えた整備士の育成
- ・将来の企業幹部候補
- ・時代の変化に対応できる自動車整備士の育成
- ・国際性を兼ね備えた自動車整備士の育成

3 評価項目の達成及び取組状況

(1) 教育理念・目的・人材育成像

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・教育理念・校訓は定められているか	④	3	2	1
・教育理念・校訓は周知徹底・実践されているか	④	3	2	1
・具体的な教育目標・方針は定められているか	④	3	2	1
・具体的な教育目標・方針は周知徹底・実践されているか	④	3	2	1
・具体的なスローガンは定められているか	④	3	2	1
・具体的なスローガンは周知徹底・実践されているか	4	③	2	1
・具体的な育成人材像は定められているか	④	3	2	1
・具体的な育成人材像は周知徹底・実践されているか	4	③	2	1

①学校の基本的な考え方および現状

校訓は学校法人第一原田学園全体の校訓であり、自動車整備士養成機関のみならず教育機関として相応しいものであると考えている。校訓・教育目標・育成人材像・スローガン等は全てではないが学校案内にも明記しており、入学前からの伝達にもつとめている。また入学後すぐに実施される新入生ガイダンスでは生活の心得(学則・細則・生活指導等)に沿ってこれらの説明・解説をするとともに、生活習慣、マナー、規範等の周知徹底にもつとめている。

教育目標の第一は一級小型自動車整備士資格、二級自動車整備士資格の100%合格である。そしてその資格を生かせる関連企業への完全就職も付随するものとする。

入学後新入生対象に基礎学力テスト(主に数学)を実施し基礎学力の把握と補填のための補習を行っている。在学中取得を目標とする資格に関しては放課後無償による特別授業を実施し資格取得率向上に努めている。1年次には担任による社会学の授業を通じ、社会人としての整備士に必要な基礎的な心構え、販売理論の授業において業界知識とマネジメントの基礎を教育している。

そして全国自動車大学校整備専門学校協会(JAMCA)のソーシャル検定を全員受験し既得知識の確認も出来る。

国際性については全員必須の英会話の授業、そして開校以来二年次に実施しているアメリカ西海岸研修旅行への参加により涵養出来るよう取り組んでいる。

学生満足度向上を達成すべく個々の学生の把握については入学後すぐに実施する担任との二者面談、新入生ガイダンスにおける性格適性検査により性格理解をはかっている。

保護者の信頼度向上のため1年次の保護者参観日、また毎年10月には学校解放デーを設け、普段の校内授業状況を見学していただくようにしている。

②今後の課題・改善点

第一の教育目標である自動車整備士登録試験100%合格について二級に関しては16年間維持しているが一級に関してはここ3年間連続で100%を逃す結果となっている。早急に指導体制を見直し、改善し再び100%合格になるよう努力したい。

(2) 学校運営

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3, やや不適切…2, 不適切…1			
・学則は適切に定められているか	④	3	2	1
・学則は周知徹底されているか	④	3	2	1
・年間事業計画は定められているか	④	3	2	1
・意志決定システムは整備されているか	④	3	2	1
・校務分掌は適切に定められているか	④	3	2	1
・校務分掌は効果的に機能しているか	4	③	2	1
・教職員の情報伝達・意志疎通はなされているか	4	③	2	1
・教職員の協調性は十分か	④	3	2	1
・各業務の効率化は図られているか	4	③	2	1
・学校の特徴を把握しているか	④	3	2	1
・特色ある学校運営に取り組んでいるか	4	③	2	1

①学校の基本的な考え方および現状

学則は適切な内容であることを確認し、必要があれば内容を変更し届け出をしている。また微調整が必要な部分が生じ、細則で対応できる範囲ならば細則を変更し適切なものとなるようつとめている。
生活の心得を教職員、全校生徒に配布している。新入生ガイダンスでは学則の説明を徹底して行っている。
意志決定は校務分掌に従って行われている。
教職員の情報伝達・意志疎通は毎朝の職員朝礼、前期・後期の境目での職員会議で行っている。
本校の特色は少人数制によるきめ細やかな指導が基礎であるとする。全教職員がクラス・学年の枠を越え全学生を把握出来るよう情報共有につとめている。
1級自動車整備科では3年次4年次にサービスマネジメント授業の中でとして板金塗装を取り入れているのが大きな特徴である。その主体性として卒業作品でカスタムペイントカーを作成している。
国際性の涵養のため2年次にはアメリカ西海岸研修旅行を実施している。

②今後の課題・改善点

教職員が少人数であるため校務の兼務が多く、明確化されていないまたは明確化しにくい部分がある。
職員朝礼以外でも放課後や夏期休業時などを積極的に利用し全員が日々教職員全員が顔を合わせる機会を増やすようにしたい。職員室が分散しているため情報共有がしづらい面も見られる。
可能な限り意志疎通・情報共有の向上に努めたい。

(3)教育活動

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3, やや不適切…2, 不適切…1			
・各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界のニーズに向け正しく方向付けられているか	④	3	2	1
・修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	④	3	2	1
・カリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
・各科目は、カリキュラムの中で適正に位置づけられているか	④	3	2	1
・各科目・教科の目的・目標は定められているか	④	3	2	1
・キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育が実施されているか	④	3	2	1
・教員による授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
・学生による授業評価の実施・評価体制はあるか	4	③	2	1
・育成目標に向け授業を行うことができる教員を確保しているか	④	3	2	1
・教員のスキルアップは図られているか	4	③	2	1
・教員研修は十分に実施されているか	4	③	2	1
・成績評価の基準は明確化されているか	④	3	2	1
・履修時間数管理は適切にされているか	④	3	2	1
・資格取得に指導体制は整っているか	④	3	2	1
・成績不良の学生支援は適切になされているか	④	3	2	1

①学校の基本的な考え方および現状

カリキュラムは国土交通省一種養成施設基準に沿った内容である。その中で本校独自に工夫してより教育目標・育成人材像に向け適切に方向付けて行く
 1年終了時には二級自動車整備士知識修得へ関連づけられる、三級自動車整備士程度の知識の獲得
 2年終了時には二級自動車整備士国家試験合格及び相応の技術力修得を第一の目標とする。
 教員の研修について全国自動車大学校整備専門学校協会の研修等可能な限り参加している。
 教員同士での研究授業も重要であり実施して行きたい。
 時間数管理は5分刻みで行っており、履修時間不足が発生した場合は有償で補習を実施している。
 成績は優80点以上、良79～70点、可69～60、以下不可となっているが、一級自動車整備科の学生に関しては85点以下で無償の再試験を実施している。
 成績不良の学生は放課後、夏期休業、秋期休業、等を利用し無償にて実施している。

②今後の課題・改善点

各科目の年間授業計画はあるが学生が閲覧できるシラバスの作成が急務である。
 以前は夏期休業を利用し研究授業を頻繁に行っていたが現在は資格取得指導・補習等で実施出来ない学生による授業評価導入は一長一短があるので検討中であるが効果的なものを取り入れていく必要がある
 正規ディーラー等企業で長期経験のある教員の確保が年々困難になってきている。
 少子化の影響もあり今後学生の基礎学力低下が予想されるが想定した上で指導技術を改善していきたい。

(4)教育成果

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3, やや不適切…2, 不適切…1			
・一級小型自動車整備士の合格率	4	③	2	1
・二級ガソリン自動車整備士の合格率	④	3	2	1
・二級ジーゼル自動車整備士の合格率	④	3	2	1
・二級二輪自動車整備士の合格率	4	3	②	1
・その他各種資格の合格率	4	③	2	1
・関連業界への就職率	④	3	2	1
・各資格合格率の向上が図られているか	④	3	2	1
・関連業界就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
・退学率低減が図られているか	④	3	2	1
・退学率低減への具体策はあるか	4	③	2	1
・卒業生の社会的活躍を把握しているか	4	③	2	1
・卒業生からの学校評価を把握しているか	4	③	2	1

①学校の基本的な考え方

自動車整備士国家資格取得が第一の教育目標でありおおむね成果は上がっていると考え。
就職に関しても昨今の整備士不足に陥っていない時代からも成果は上げられていると考え。
資格合格率向上には常に意識的に取り組んでいる。
退学率0%を目標に学生指導に取り組んでいる。
定期的に企業訪問をし卒業生の状況を出来る限り把握するようつとめている。
卒業生が来校したとき学校満足度のアンケートを実施している。
今年度より試験的にHYPERQUテストを取り入れ学生の特性把握がより客観的に出来るよう取り組んでいる

②今後の課題・改善点および現状

二級に関しては今後もキープ出来るよう、一級に関しては100%達成に向けて引き続き努力が必要
就職に関しては整備士不足により今後も慢性的な売り手市場となりそうであるが、時代の変化にかかわらず
学生の社会人教育、キャリア教育を強化していきたい。
退学率0%を目標に今後も学生に対してのきめ細やかなケア、保護者との連携を実施していく。
年々学生の価値観や退学理由の多様化が見受けられるが、今後もHYPERQUテストやSPI等学生把握の
ためのツールを積極的に活用していきたい。

(5) 学生支援及び保護者との連携

評価項目	適切・・・4, ほぼ適切・・・3, やや不適切・・・2, 不適切・・・1			
・学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
・学業指導体制は整備されているか	④	3	2	1
・就職指導体制は整備されているか	④	3	2	1
・個人的適応指導は整備されているか	4	③	2	1
・社会性指導は整備されているか	4	③	2	1
・学生の経済側面に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4	③	2	1
・課外活動に対する支援体制は整備されているか	4	③	2	1
・学生寮は整備されているか	④	3	2	1
・学生食堂は整備されているか	4	③	2	1
・保護者とは適切に連携しているか	4	③	2	1

① 学校の基本的な考え方および現状

学業、私生活、進路全てが学生指導の重要項目である。、学生がそれらについて気兼ねなく相談できる環境が必要である。学習成果を上げるためにも学生の個人的適応指導、社会性指導は重要視している。これら全ての基礎となるのは学生が心身共に健康であることが最も重要である。

学生の経済的支援に関しては日本学生支援機構の奨学金および本校独自の成績優秀者奨学金。兄弟入学生は奨学金の授与。通学困難で入寮する学生には学費の一部を免除する寮生特待生制度がある。

保護者との連携は保護者参観日、学校解放デー、12月の三者懇談を実施している。これらの行事を通じ保護者からの学校への信頼度向上に努めている。

今年度より試験的に第三学年HYPERQUテストを取り入れより客観的に学生の分析が出来るよう取り組んでいる。

平成29年度より第1学年でHYPERQUテストを導入する予定である。

社会性指導についてはJAMCAソーシャル検定、進路指導等で体系的に指導をしている。

学業指導については教育活動項目を参照していただきたい。

② 今後の課題・改善点

学生・保護者からの要望ニーズに合わせ今後もスローガン達成のために取り組んでいきたい。また学生一人一人の個性・能力を分析した上でそれらに適合した指導を心がけていきたい。

(6)教育環境

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3, やや不適切…2, 不適切…1			
・施設・設備は、教育上十分に整備されているか	④	3	2	1
・女子学生に対する設備は整備されているか	4	③	2	1
・学校行事を通じ学生間の交流が図られているか	4	③	2	1
・課外活動・海外研修等の体制は整備されているか	4	③	2	1
・インターンシップ制度は整備されているか	④	3	2	1
・校内は清潔に保たれているか	④	3	2	1
・安全管理は適切になされているか	④	3	2	1
・防災体制は整備されているか	④	3	2	1
・通学の利便性に配慮出来ているか	④	3	2	1
・学生の健康維持のための施設・設備はあるか	④	3	2	1

①学校の基本的な考え方および現状

施設設備の充実は教育上非常に重要であると考え、一種養成施設の設置基準以上の環境を常に意識して環境整備につとめていく。上記項目についてはおおむね適切な施設設備である。
通学については電車、自動車、オートバイいずれの手段でも通学可能となっている。
学生健康維持のためにトレーニングルームを完備している。
今年度は学校創立30周年記念事業として最新式シャシダイナモを設置した。また学生・教員の健康面に配慮し黒板を撤去、チョークの使用を止め、全てホワイトボードにし、学習効率化のため全教室にプロジェクターを導入した。
(3)～(6)に関して卒業生の感想をフィードバックするため卒業生が来校時に全員に学校評価アンケートを実施している。

②今後の課題・改善点

今後も適宜必要な物は整備していく。
今後益々自動車技術の進歩は早まると予想される、設備の整備にコストがかかる。

(7) 学生募集・受入・入試制度

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3, やや不適切…2, 不適切…1			
・学生募集は適正に行われているか	④	3	2	1
・学生募集において学校の現状は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・学生募集において教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
・入学選考は適正かつ公平な基準に基づいて行われているか	④	3	2	1
・授業料等納付金は妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・費用面について正確に伝えられているか	④	3	2	1

①学校の基本的な考え方

入学ミスマッチを防ぐため、学生募集・及び入試制度は重要な位置にあると考える。
本校ではAO入試は実施しておらず、基礎的な学力適性検査、そして面接を実施し可否を判定している。
学生募集においては透明性を高めるため出来る限りの情報は伝えるようにしている。
費用面は妥当であると考え、また授業料以外の必要経費についても正確に伝えている。
岡山自動車大学の募集は透明性と高等学校の視点にたってどうあるべきかを重要視している。

②今後の課題・改善点

少子化のため今後益々学生募集にはコストがかかるが、公正な学生募集・入試を実施していきたい。
若者の車離れがますます深刻になっている現在、自動車整備士の重要性をさらに告知していきたい。

(8) 財務

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3, やや不適切…2, 不適切…1			
・中長期的に財務基盤は安定しているか	④	3	2	1
・予算・収支計画は妥当なものとなっているか	④	3	2	1
・会計監査がきちんとなされているか	④	3	2	1
・財務情報公開は適正にされているか	④	3	2	1

①学校の基本的な考え方および現状

財務状況は安定しており、学校法人で適切な会計監査を受けている。

②今後の課題・改善点

引き続き安定かつ健在な財務状況を維持していくこと

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3, やや不適切…2, 不適切…1			
・法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
・個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善につとめているか	④	3	2	1
・自己点検・自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

①学校の基本的な考え方および現状

国土交通省・運輸局の指導に従い適切であるとする。
個人情報保護にも細心の注意を払っている。
今年度は文部科学省の委託事業として試験的に第三者評価を受審し、良好な評価を得られた

②今後の課題・改善点

法令は変化するので対応出来るよう情報収集を怠らない

(10) 社会貢献

評価項目	適切…4, ほぼ適切…3, やや不適切…2, 不適切…1			
・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	③	2	1
・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1

①学校の基本的な考え方および現状

校外実習場を労働基準協会の講習用に貸し出しており、地域への貢献になっている。
授業時間数が過密なため積極的にボランティア活動参加への支援はしていない。
休日等を利用しての活動に関しては自主性に任せている。
学校全体では献血活動は毎年実施している。

②今後の課題・改善点

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

総合的にはおおむね良好であると自己評価する。細かな問題や改善点にも注目し、真摯に受け入れ、それら一つ一つを解決していく上でよりよい教育機関を目指していきたい。
本校の基本的運営方針は、「岡山自動車大学校の具体的な教育目標・スローガン・育成人材像を現実化すべく邁進する。全教職員が自らの使命・役割を認識した上で、現状を分析し、将来予測を踏まえた上で学校の教育目標・育成人材像の実現に向けて解決すべき課題が何であるかを究明し、課題を解決するための方策を練り、その方策に沿った具体的な行動を明らかにするPDCAサイクル手法により改善を継続していくべく定期的に成果を意識し取組を職員会議等でチェックしていく。」である。この運営方針の下年度ごと前期・後期ごとに事業計画を作成し、目標達成出来るよう努力している。
中長期的には少子化による学生募集環境の悪化が最大の懸念事項であるが、現在と同様透明性の高い学生募集を基本としてまた教育の質保証をそして教育環境整備を最優先にして対処していきたい。現在本校では留学生の受入はしておらず、当面は現状維持を考えているが、今後の状況次第では選択肢の一つにもなり得る。
岡山自動車大学校の社会的責任はより高度な教育を受けた自動車整備士を社会に送り出し社会に貢献することである。同時に自動車整備士の社会的地位向上にも貢献していきたいと考える。社会から信頼される運営に今後も取り組んでいきたい。